

院内転倒・転落の要因解析研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年8月27日～2023年3月31日

〔研究課題〕

院内転倒・転落の要因解析

〔研究目的〕

院内転倒・転落を減らすため、その要因を明らかにします。

〔研究背景〕

院内転倒・転落は、軽微な外力であっても、高齢者など身体能力の低下した方では大腿骨近位部骨折や脳挫傷など寿命の短縮に直結する重篤な外傷の原因となります。近年、院内転倒・転落は医療安全および経済面からも注目されています。本邦では医療事故の17-40%を転倒・転落が占めています。米国では入院患者の転倒・転落による1年間当たりの経済損失が2020年には約55億ドルに達すると見積もられています。このような背景から院内転倒・転落を防ぐために様々な対策が講じられてきましたが、その数は増加の一途を辿っています。当院でも様々な対策を行っていますが、年間400-500件の院内転倒・転落が発生しており、これまでの対策では不十分です。院内転倒・転落の要因を明らかにし、抜本的な対策を講じることが急務です。

〔研究意義〕

院内転倒・転落の要因がわかれば、対策を講じることができ、転倒・転落の予防につながります。

〔対象・研究方法〕

2013年1月1日から2017年12月31日までに帝京大学医学部附属病院に入院した全ての方を対象とします。転倒・転落群と非転倒・非転落群にわけ、患者情報(年齢、性別、身長・体重、病名など)、転倒・転落の状況、転倒・転落が患者に与えた結果を比較・検討し、転倒・転落の要因を調べます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報の保護に留意し、匿名化・保管・破棄の方法に配慮します。

〔その他〕

研究参加による経済的な利益は発生しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部附属病院整形外科講師 安井洋一

研究分担者: 帝京大学大学院医学研究科大学院生 平畑昌宏

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 33703]